

自己点検・自己評価の公表について

学校法人 名古屋大原学園

1. 当学園における自己点検・自己評価の取り組みについて

専修学校における自己点検・自己評価は、平成19年に学校教育法及び同施行規則の改正により義務付けられることとなりましたが、本学園におきましては従前より独自の 방법으로評価点検とその改善に努めてまいりました。

平成29年度においても、より同法に則った項目で点検・評価を実施しましたので、ここにその結果を公表いたします。本学園における教育の現状を正しくご理解いただき、より一層のご支援を頂ければ、幸甚に存じます。

なお、自己点検・自己評価の詳細につきましては、本学園各地区各学校HP上で学校関係者評価報告書とともに自己点検・自己評価の総括表を公表するとともに、各学校内で詳細報告書を公開しています。閲覧ご希望の方は、日時をご予約のうえご来校ください。

2. 平成29年度自己点検・自己評価の結果について

本学園の教育理念を念頭に置き、分野ごとに行う専門教育を通じ、教育基本法に謳う“人格の完成”を目指し、“社会の形成者”として必要な資質を備えた身心ともに健全な学生を育成するため、すべての業務に誠意と情熱をもって対応します。

(1) 教育理念・目標

本学園では、学園の基本運営方針・教育目標・学園スローガンを定め、事業計画書等で明確に公表するとともに、職員総会ははじめ定期的に確認・点検できる場を設けています。

専門課程の目標：早期大人化教育、資格試験・公務員試験など専門教育の充実

(2) 教育活動

本学園では、変化の激しい社会ニーズに応えるため、毎年個別委員会を設置し、各事業年度の重点項目を定め、時代に即応した実践的な教育を展開できること、将来へ向けての準備を怠らないことに重点を置き、各テーマに取り組んでいます。

各校各学科とも、それぞれの分野からの人材ニーズを適切に把握し、目標人材像を定め、それに応じたカリキュラム等教育計画全体を定期的に見直しています。

教育現場においては、資格教育に留まらず、「自己管理能力」「協調行動力」など職業現場で必要とされる能力の開発など、産学連携の職業教育にも注力しています。

(3) 学生支援と教育成果

本学園は、全国展開する大原グループの一員として、授業カリキュラムから就職指導に至るまで、総合グループ校の特徴を生かすことにより、良質の教材の提供・高度な職員のスキル・全国を網羅する求人網等、学生の満足度の高い学校を実現しています。

各校ともクラス担任制で運用することにより、学生本人だけでなく父兄・出身校とも連携をしっかりと行い、よりきめ細やかな学生管理を行うことによって、国家試験の合格率や就職率など高い教育実績とともに低退学率を実現しています。

学園主導で「大原カーボンオフセットプログラム」に取り組み、各校とも学生が主導となって地域活動やボランティア活動に参加できる環境を整えています。

(4) 法令等の遵守

本学園は、会計・法律の資格指導校である特色を生かし、新制度や規定の制定に積極的に取り組んでいます。

個人情報に関しては、個人情報保護管理者を置き、法令の遵守に努めるだけでなく、詳細な学内規定『個人情報取扱規則』を策定し、全ての個人情報の取り扱いには細心の注意を払っています。

本学園は、自己点検・自己評価の実施と公表を、今後も積極的に行っていきます。

学校法人名古屋大原学園

【名古屋】

大原簿記情報医療専門学校
大原法律公務員専門学校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校

【岐阜】

大原簿記医療観光専門学校 岐阜校
大原法律公務員専門学校 岐阜校

【津】

大原簿記医療観光専門学校 津校
大原法律公務員専門学校 津校

【浜松】

大原簿記情報医療専門学校 浜松校
大原法律公務員専門学校 浜松校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 浜松校

【静岡】

大原簿記情報医療専門学校 静岡校
大原法律公務員専門学校 静岡校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 静岡校

【沼津】

大原公務員医療観光専門学校 沼津校
大原介護福祉専門学校 沼津校

作成者: 榊原義久

作成日: 平成30年4月30日

サンプル数(評価数値の分布合計): 9

(1). 教育理念・目標

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
②学校における職業教育の特色は明確になっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0
④学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0
⑤各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0

①課題

評価は、昨年度同様「適切」又は「ほぼ適切」との評価となっており、特に課題となる項目はない。

急激な社会の変化により、各業界のニーズも変化している可能性がある。各業界がどのような人材を求めているかを調査し、カリキュラムに反映させる柔軟性が問われる。

②今後の改善方策

「④学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか」は、引き続き入学前の保護者説明会・入学式・入学後のガイダンス・入学後保護者説明会を開催し、周知に努める。
今後は、インターネットなどを使用した情報の発信方法を検討する。

各業界においてどのような人材を求めているかについては、求人関係で各社と接触する機会がある就職課(キャリアサポート室)との連携を検討する。

③特記事項

教育基本法に於いて「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができる」とあり、「専門能力や一般常識能力」を身につけた人材の育成を目的として、当校は平成24年4月に開校した。

当学園では年度単位で学園学校運営計画書を策定しており、その中で学園全体の教育目標を掲げている。さらに教職員・学生・クラスの3者の能力を工夫活用し、健全な国民としての学生を育てることを教育方針として定めている。

全教職員は、当該計画書を所持しており、本計画書は校長等により毎年見直しが行われ、毎年度末に当学園全職員が教育目標・教育理念を全教職員が確認している。

当学園は「資格の大原・就職の大原」として「変わらない価値のあるもの(不易)」を大切にしつつ、その時々々の社会のニーズに合わせて「変えていく必要があるもの(流行)」に的確かつ迅速に対応していくため、カリキュラム等の改善を毎年行っている。

(2). 学校運営

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①目的等に沿った運営方針が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
②運営方針に沿った事業計画が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
④人事、給与に関する規程等は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0
⑤教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0
⑥業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0
⑦教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	3	0	0

①課題

学校運営については「適切」又は「ほぼ適切」との評価である。

「⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか」は、課題であった新たな学生管理システムの導入がされた。新システムについて職員の理解・使用度の格差があるため、理解・使用度の向上が課題である。また、各種アプリケーションを用いた業務の効率化に積極的な職員と消極的な職員との格差是正も必要である。

個人情報保護に関して、学校関係者評価委員会において学生に対する意識向上の方策の提案があったが、具体的な方策がとられていないことが課題である。

②今後の改善方策

⑧については、今年度より新システムの導入がされたが、職員における新システム操作の習熟に努め、業務の効率化を図る。

また、当学園では教育情報システムを使用した業務の効率化や学生に配付するタブレットを使用した授業方法の確立など新たな教育指導方法の強化を行っている。各職員が過去の講義方式に拘らず、新たなチャレンジとして様々なアプリケーションを使用した方法を確立するよう推進する。

学生に対する個人情報保護に関する意識向上策については、学生に対して使用するツールなどを作成し、今年度中に啓蒙活動を行う。

③特記事項

毎年、学園学校運営計画書が作成されている。計画書には運営方針・事業計画・組織図が明示されており、運営組織や意思決定機能についても明確化され、毎年度末において行われる職員全体会議において、全職員に対して事業計画等の説明がされている。

必要な規定に関しては、諸規則集が設けられ、関係法令の改正に伴い、そのつど改正を行っている。

当学園では多くの個人情報を扱うため、個人情報保護法に基づく学園個人情報保護規則を整備し、適正に取り扱っている。

教育活動等に関しては、学校自己点検評価として学校ホームページに公開しているが、学校関係者評価を通し情報公開を積極的に行っている。また、学校財務情報についても公表の場を設けている。

学生管理(成績管理、出欠管理など)や財務経理等の学内業務は、コンピュータ化が進んでおり、効率的な業務遂行ができるよう工夫されている。

(3). 教育活動

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0
③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
⑤関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
⑥関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
⑦授業評価の実施・評価体制はあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	3	0	0
⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
⑩資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
⑪人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0
⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0
⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研究や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0
⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0

①課題

教育活動については、「適切」又は「ほぼ適切」との評価であり、昨年度より「適切」が増加している。

「⑥関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか」の項目は、学生が自主的に参加する企業等を選択し、複数の企業に参加する学生も多い。また、関連企業との連携により長期間の職業訓練も行われる学科もあり、学校全体の積極的な取り組みが行われ、昨年より更に改善がされている。

今後は、長期間の職業訓練が可能な協力企業の拡大が課題である。

「⑦授業評価の実施・評価体制はあるか」については、年度末における教職員全員の個別面談を実施するなど改善がされているが、面談頻度が少ないなどの課題がある。

「⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか」は、当学園が職員の知識向上を目的とした研修制度の奨励がされ、当校全職員が積極的に取り組んでいる。

②今後の改善方策

平成29年度において、より実践的な職業訓練を行うため、一部学科では長期的な職業教育ができるよう協力企業と協議し、実施した。また、全学科において職業教育が実践されており、今後も継続的な職業教育を行う。

また、協力企業の拡大は、当校の教育活動にご理解いただき、協力が得られるよう粘り強く交渉を行う。

授業評価については、「職員用自己評価シート」の作成と年度末の役職者による評価面談を行ったが、各学期末行うなど面談の頻度を上げる。

職員の能力開発のための研修等は、昨年度から新たな取り組みが行われており、今年度も継続する。

③特記事項

当学園は「国民期待の教育目標」を掲げて学生を募集し、目標実現のため組織運営、教職員の学識や品格向上に資する自己啓発などを基本運営方針に掲げて目標達成の教育を推進している。また、学園学校運営計画書に掲げた教育目標を実践するためのカリキュラムとなっている。

資格試験直前期には補講の実施により合格率向上を図っており、プロジェクターを使用したパワーポイントなど理解度を高めた授業を工夫している。また、学生にタブレットを配付し、情報端末の有効活用により資格試験や就職対策に使用できるよう推進している。

進級・卒業に関しては、学生に配布している「学生便覧」に進級・卒業基準を明示し、厳密に審査判定している。

(4). 学修成果

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①就職率の向上が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
②資格取得率の向上が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0
③退学率の低減が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0
⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	3	0	0

①課題

学習成果については、昨年度は一項目で「やや不適切」との評価があったが、平成29年度は「適切」又は「ほぼ適切」となっている。

「④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」については、卒業生に対するアンケート調査を実施することが課題であったが、アンケート調査を実施することにより一定の情報収集をしたことが「やや不適切」の評価が解消された要因といえる。ただし、アンケート調査による情報だけでは、卒業後のキャリア形成への効果を把握するには不足しているため、他の情報収集方法が検討課題である。

また、退学者数は1名に留まっており、前年度より更に改善されている。

②今後の改善方策

卒業生の活躍・評価の把握については、アンケート調査を実施したことにより一定の情報を得ることができ、卒業生の動向を確認することができた。今後は、卒業生と直接連絡することにより詳細な状況把握をし、カリキュラムの有効性を客観的に評価できる体制を整える。この調査は、在校生に対し社会人としての心構え・取り組み姿勢・学生の間にもやるべきことなどを発信する貴重な資料であるとともに、卒業生の社会的な活躍を把握する術となる。

また、退学者防止については、前年に改善した「保護者との定期的な連絡」が効果として表れており、今後も引き続き実行する。

③特記事項

就職指導では、担任と学生との間で企業研究・自己考察・履歴書の書き方・自己PR・志望動機の内容など十分な就職対策を実施し、就職サポート担当の支援を受けて就職率の向上を図っており、就職率は100%である。また、OB・OGによる就職講演を実施し、学生の自主的な就職活動を促している。

教職員は学生個々の状況を把握し、必要に応じて勉学や進路について早期に面談を行っている。欠席・遅刻が多くなる傾向がある場合は、保護者と学生本人、担任（必要に応じて校長または部署責任者出席）が面接を実施し、生活習慣の改善や退学防止に取り組んでいる。

卒業年次には、内定先企業の職種に応じたカリキュラムを行い、入社2年目レベルの学生を育成することを行っている。このカリキュラムは、理解ではなく、実践できることを目的としている。

(5). 学生支援

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①進路・就職に関する支援体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
②学生相談に関する体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
④学生の健康管理を担う組織体制はあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0
⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
⑥学生の生活環境への支援は行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0
⑦保護者と適切に連携しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0
⑧卒業生への支援体制はあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0
⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0
⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	3	0	0

①課題

学生支援に対しては、「適切」又は「ほぼ適切」となっており、特に課題はない。

「⑥学生の生活環境への支援」について課題であった支援制度の周知拡大は、支援制度パンフレットの作成を行い、高校訪問時、外部会場ガイダンス、オープンキャンパスにおいて周知を図っており、改善がされている。

「⑦保護者との連携」では、昨年度の課題であった保護者会の参加者へ促進は、保護者の参加を学生に直接促し、参加の有無をインターネットを利用するなどの工夫により昨年度より多くの参加者があり、一定の成果があった。

また、アプリケーションを使用した保護者との連絡・報告等の対処ができないかを検討すべきとの意見があった。

「⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組み」については、高校に対する支援を続けており、特に課題はない。

②今後の改善方策

⑥については、引き続き「支援制度パンフレット」配布等により周知強化を図る。

⑦保護者との連携の一方法として、一定時期に学生の出席・成績状況の報告が郵送でされているが、アプリケーションなどの電子媒体による配信を検討する。

⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みは、高校からの支援要請を積極的に受けており、今後も継続して取り組む。

③特記事項

クラス担任制度を採用しており、担任と学生の信頼関係に基づき学習相談、進路相談、就職相談が行われている。また学科長や校長も担任をサポートし、学校を挙げた指導支援体制を構築している。

就職活動に関しては、学校に寄せられる求人情報は名古屋に本部を置くキャリアサポート室が一元管理し、ファイリングした上で自由に閲覧できるほか、企業データベースに登録され学内ネットワーク上でも検索可能である。

担任は、個別に書類作成指導や面接対策等を実施、キャリアサポート室担当者は定期的な就職ガイダンス、模擬面接の実施など学生をサポートする体制が整っている。また、卒業年次では内定企業の職種別にクラス編成を行い、実務教育を主体とした入社前教育を実施している。

課外活動については、本気モードで楽しむ「キャンパスライフ」として、毎年菅平研修旅行、遠足、スポーツフェスティバル、卒業研修旅行を行っている。また、野球部・バスケット部等のクラブ活動が行われている。

学生の遅刻・欠席が目立つ場合には、直ちに保護者に連絡し、家庭での状況や学校生活面の意見交換を行い、学生の現状把握に努めている。

学費納入方法である「分割納入方法」、遠方入学者に対する「遠距離通学支援制度」「一人暮らし支援制度」により経済的な支援体制が整備されている。

当校では、高校生に対し各種検定前において対策講座を行うなど、高校からの要望にできる限り応えている。

また、OB・OG講演会を開催し、企業が求める人材や検定試験合格の体験談など、幅広い内容の講演を実施し、学生支援を行っている。

(6). 教育環境

評価項目	評価数値の分布 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	7	2	0	0
②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	8	1	0	0
③防災に対する体制は整備されているか	9	0	0	0

①課題

教育環境については、ほぼ「適切」の評価であり、特に課題はない。

「①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか」は、ネットワーク環境や授業で必要な設備は整備されており、特に問題はない。有効活用されていない教室や設備があり、どのように有効活用するかを検討すべきとの意見があった。

「②インターンシップの教育体制」は、全学科で実施がされており、特に問題はない。検討課題であったホテル・ウェディング科については、より実践的な実習を行うため、長期間の実施を行った。

また、海外研修については、一昨年度は実施したが、海外情勢の不安から昨年度は見送った。海外情勢に影響されない海外研修に代替する方策を考える必要がある。

②今後の改善方策

有効活用されていない教室・設備は、別の施設に変更することができないか検討する。ただし、費用が過大となる場合には、現存の施設のままでの有効活用策を検討する。

海外研修は、異文化体験や異文化理解をするうえで有用である。安全上の問題もあり実施には慎重に対処しなければならない。海外研修の代替案として、在日外国人との交流などを通じて多文化を知る機会などを設定することも検討する。

救命講習などの実施は、計画性をもって実施する必要がある。実施時期等の早期決定・担当者の明確化を行う。

③特記事項

専修学校設置基準に照らして講義室、実習室とも十分な面積と必要数を満たしている。実習設備は、「PC実習室」「医療実習室」「バンケットルーム」「フィッティングルーム」など各学科の必要に応じた教育用機器備品を揃えており、学生が学習する環境は整えられている。

教室にはパワーポイントや画像を映すためのプロジェクターが備わっている。また、校内全フロアにWi-Fiが完備され、学生に配付するタブレットを使用したインターネット接続も可能となっている。

研修施設として長野県菅平と静岡県富士宮に研修施設があり、大原学園グループ校が利用することができる。入学年次の夏には研修施設を利用した研修旅行を実施し、学生間のコミュニケーションを図っている。

(7). 学生の受入れ募集

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学生募集活動は、適正に行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0
③学納金は妥当なものとなっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0

①課題

学生の受入れ募集については、「適切」又は「ほぼ適切」となっており、特に課題はない。

「①学生募集活動は、適正に行われているか」は、オープンキャンパス実施内容の検討、学外で行われるガイダンス等に教務担当職員が参加するなど、職員全員が学生募集活動に積極的に取り組んでいることが成果として出ている。

「②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか」は、高校訪問や学校ホームページ等により、タイムリーな提供を実施しており、特に問題はない。

②今後の改善方策

学生募集活動は、オープンキャンパスに参加した高校生とのコミュニケーションを取ること、当校の教育方針をアピールすることがポイントとなる。職員間で定期的な検証を行いアピールポイントを全体で共有する。

また、教務担当職員が学外で行われるガイダンス等にできる限り参加し、教育現場に立つ者からのアピールを積極的に行う。

教育成果の提供については、簿記教科実施高校との関係強化などを図っており、高校訪問と併せ今後も継続する。

前々年度より、通学にかかる交通費など学納金以外の負担軽減を図るため、支援制度を実施している。この支援制度の周知を図るためパンフレットを作成し、学生に対する当校のバックアップ体制強化をアピールしており、今後も継続して周知に努める。

③特記事項

学生募集のための資料は、募集案内・要綱などをすべてを1冊にまとめている。学校の基本情報、学科ごとのカリキュラム、資格合格実績、就職実績、学内イベント情報、オープンキャンパスの開催日程を掲載している。また学費や入学手続き方法を明記した募集要項も綴じ込んである。入学者選抜については、出願後遅滞なく実施し、書類選考及び必要に応じ責任者による面接を実施している。オープンキャンパスに未参加の学生から志願書が提出された場合には、別途当校の教育方針を説明した上で再度の意思確認をすることにより、志願学生とのミスマッチがないようにしている。

(8). 財務

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0
②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0
③財務について会計監査が適切に行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
④財務情報公開の体制整備はできているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0

①課題

財務についての評価は、「適切」が多く、特に課題はない。

学校の財務基盤の安定を図るためには、一定数の入学者を確保できるよう引き続き努める必要がある。

②今後の改善方策

18歳人口の減少傾向が大きくなるため、一定数の入学者の確保をするためには、他の教育機関との差別化を明確にする必要がある。学校のアピールポイントを明確にし、外部に情報発信することが重要である。そのためには、社会が求める人材育成や学生のニーズに対応した教育を今後も探求することが大切である。そのため、時代に対応する企画力の強化、教職員個々の業務力の向上に向けた取り組みを継続して行う。

また、金銭的な面だけでなく業務効率の改善にも努める必要がある。業務内容の改善による勤務時間の短縮が光熱費の削減に繋がるなど、効率化によるコスト削減を図る。

③特記事項

財務情報については「財産目録等の閲覧について」の規程を整備し、財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び監査報告書は、学校ホームページや閲覧による情報公開の場を設けている。

理事会・評議員会において、予算・収支計画の立案及び承認が適切に行われ、財務に関する会計監査及び税務監査は適切に行われている。

(9). 法令等の遵守

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0
③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
④自己評価結果を公開しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0

①課題

法令等の遵守については、「適切」が多く、特に問題はない。

②個人情報に関しては、個人情報保護法に基づく学園個人情報保護規則を整備し適正に取り扱いがされている。学校は多くの個人情報を取り扱うため、引き続き情報の管理・規則厳守の確認、徹底を図る必要がある。

また、ハラスメントが社会問題となっている。教職員と学生、職員間のハラスメントなどの防止対策を確立する必要がある。

②今後の改善方策

定期的な研修により、個人情報の管理・運営上におけるリスクを職員が理解し、今後も個人情報の取扱いに注意するよう継続して努める。

ハラスメント対策は、現在の社会情勢から必要不可欠との認識に立ち、職員に対する研修など具体的な対策方法を検討する。

③特記事項

教育基本法の精神に則り、学校教育法に従い、企業において必要とされる専門能力を身につけた人材の育成を行うことを当校の学則に目的として定めている。また、当校は特に多くの個人情報を扱うため、個人情報保護法に基づく学園個人情報保護規則を整備し適正に取り扱い、個人情報の管理、コンプライアンスに十分な注意を払っている。

自己評価は全職員に対し毎年度3月末に実施し、学校自己点検評価として学校ホームページに公開している。

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0
②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
③地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0

①課題

昨年度と比較し「適切」との評価へ改善しており、特に課題はない。

①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献については、学園の「人的資源」「物的資源」の提供を行い、社会貢献・地域貢献をできる範囲内で継続して行う。

②学生のボランティア活動については、昨年度において「ぎふ清流マラソン」のボランティア活動に進級生全員が参加し、学生の参加意識も高く、好評であった。今後も引き続きボランティア活動を奨励・支援し、社会貢献・地域貢献の意識を高める。

②今後の改善方策

①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献については、開校時から高校等における資格取得支援のための教職員の派遣や学内における支援講座の実施、廃棄教材等を自治会の資源ゴミとしての提供、教室の貸出しを継続して行っている。また、今後も出来る範囲内で積極的に取り組む。

②ボランティアについては、進級生全員による「ぎふ清流マラソン」のボランティア活動を行った。今年度以降も参加し、社会形成者意識の向上と学校関係者以外の方との協調性、コミュニケーション能力の向上に努める。また、学校周辺の清掃活動のボランティアも継続的に行う。

③特記事項

商業系高校からの依頼による簿記講習等において担当職員が高校に出向き講習を行うことにより、地元高校生に対する資格取得のバックアップを行っている。

地元地区・自治会に対して、毎月1回資源回収として当校からの廃棄教材・段ボールなどを提供し、地元自治会の地域活動に役立っている。

当校は、社会人や大学生の方に対し、平日夜間や土曜日において附帯教育を実施しており、資格取得等のスキルアップをサポートしている。また、学校施設は、土曜日・日曜日において各種資格試験会場等として教室の貸し出しを行っている。